

健康診断の検査項目について

Vol.6

健康診断でよく行われる検査項目について、その働き・基準範囲・疑われる疾患などを解説していきます。

〔肝機能検査③〕

肝臓は「沈黙の臓器」とも呼ばれ、トラブルがあっても症状があらわれにくく、知らない間に病気が進行していきます。その異常をいち早く発見するための検査です。

ロイシンアミノペプチターゼ（LAP）

基準範囲：30～70 IU/L

たんぱく質を分解する酵素。胆道の閉鎖による胆汁のうっ滞で、血液中に漏れ出して高値となる。

高値・・・肝炎・肝がん・肝硬変など

膠質反応（ZTT・TTT）

基準範囲：ZTT 12.0以下 ユニタリ単位

TTT 5.0以下 ユニタリ単位

大半が肝臓でつくられる血清たんぱく質の異常を調べる検査のこと。アルブミンの減少とグロブリンの増加を反映する。

高値・・・肝炎・肝硬変・自己免疫疾患（膠原病）など 低値・・・栄養不良

アルブミン・グロブリン比（A/G比）

基準範囲：1.1～2.0

アルブミン（肝臓で作られる）・グロブリン（免疫機能の異常で増減）は血清中の主なたんぱく質で、その比率によって病気の診断や重症度を判断する。

高値・・・無γ-グロブリン血症 低値・・・肝障害・ネフローゼ症候群・感染症など

*アルブミン、グロブリン（総蛋白）については次回になります。

藤枝健診センター健診検査課主任 高田 雅紀

藤枝健診センターが、「労働衛生サービス機能評価」制度に基づく優良施設の認定を受けました！

当協会藤枝健診センターが、（公社）全国労働衛生団体連合会が実施している「労働衛生サービス機能評価制度」に基づき、健康診断等の労働衛生サービスを適切に実施できる機能を有し、優良な精度管理を確保している労働衛生施設として認められました。



○評価対象区分

「健康診断」「ストレス対策支援」

○有効期間

平成29年6月1日～平成32年5月31日

【開催案内】第47回学校保健セミナー

近年、教育現場では、児童生徒の中で、発達障害の診断はありませんが、行動上や理解面において定型発達児とは少し異なる「気になる子」の存在が知られています。

今回の講演では、こうした「気になる子」をテーマに、特有の感じ方や気になる行動の背景を知っていただくとともに、その具体的な対応の仕方にも理解を深めていただきます。

○テーマ：「気になる子どもへの対応」

○講演者：常葉大学保育学部保育学科 講師 赤塚めぐみ氏

○開催日時：平成29年12月1日（金）14：00～16：00

○会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」501会議室
（静岡市駿河区馬淵1丁目17-1）

○問合せ先：静岡県予防医学協会 健康増進課広報担当

電話054-636-6461 F A X 054-636-6462

【開催案内】第25回日本産業ストレス学会

12月8日（金）・9日（土）に静岡市のグランシップで開催いたします。本学会は働く人のストレスに関する様々な問題を研究する全国規模の組織で、静岡県では初開催です。職場メンタルヘルス対策の貴重な情報源になるかと思えます。産業保健職、人事労務担当者など非会員の方も含め、多数のご参加をお待ちしております。

○テーマ：「ストレス社会における産業保健・産業看護

～一次予防へのパラダイムシフト～」

○大会長：巽 あさみ（浜松医科大学医学部 教授）、
西 賢一郎（ジャトコ(株) 統括産業医）

○開催日程：平成29年12月8日（金）～12月9日（土）

○会場：グランシップ（静岡市駿河区池田79-4）

○内容：シンポジウム、ワークショップ、特別講演、教育講演、一般演題発表等

○問合せ先：学会HP <http://www.procomu.jp/jajsr2017/>

静岡県予防医学協会 総合健診センター

ヘルスポートだより

◆ご自身やご家族の“ものわすれ”の予防をしませんか！

65歳以上の高齢者のうち認知症の人は、約5人に1人の割合になると予測されています。認知症、特にアルツハイマー型認知症は突然発症するものではなく、時間の経過とともに症状が進んでいくため、軽度認知障害（MCI）の兆候を早く捉え、予防することが大切です。

ヘルスポートでは、本年7月21日人間ドック受診の方から健診資料の中に「ものわすれチェックシート」を同封しています。

日常生活の中で思い当たる行動や気になる項目にチェックを付け、健診日にご持参いただいた方には、当日の間診時に看護師が確認いたします。

医学的な判断基準ではありませんが、項目の中でいくつか思い当たる行動や気になる症状がある方に関しては、要注意のため「ものわすれドック」をおすすめします。

ぜひ、人間ドックをご受診いただく際に“ものわすれ”、ご家族ご自身の健康について考えてみてみませんか。

ものわすれ 気になりませんか？

軽度認知障害(MCI)の兆候はありませんか？

2025年、65歳以上の高齢者のうち認知症の人は約700万人（5人に1人）に増加すると予測されています。認知症、特にアルツハイマー型認知症は突然発症するものではなく、時間の経過とともに症状が進んでいくため、軽度認知障害（MCI）の兆候を早く捉え、予防することが大切です。

軽度認知障害（MCI）は日常生活に支障はありませんが、その経過によっては、将来でその半数以上が認知症に進行すると言われています。軽度認知障害（MCI）の兆候で適切な予防や治療を行えば、認知症の発症を遅くすることや進行を遅らせることがわかっていきます。

出典：厚生労働省「認知症施策推進ロードマップ（第2版）」

思い当たる行動や気になる項目はありますか？

日常生活をチェックしてみましょう

・もの忘れがひどい	・場所や経路がわからぬ
□ 昨日の晩や朝の記憶が曖昧になる	□ 相手の名前や場所をよく間違える
□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 同じことを何度も繰り返す	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
・判断力や理解力が落ちる	・人目が気になる
□ 料理や洗濯など家事がうまくできなくなった	□ 以前より物忘れがひどくなった
□ 簡単な計算ができなくなった	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 運転のミスが多くなった	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 新しいことが覚えられぬ	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる
□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる	□ 物忘れがひどい頻度で頻りに忘れる

※本項目に該当する場合は要相談です。（医師の診断結果ではありません）

いかに予防できる行動や気になる兆候がある場合は、「ものわすれドック」をお勧めします。

「ものわすれドック」では、最新のAI検査を用いてアルツハイマー型認知症で早期に発症する遺伝的リスクの検査結果を基に、脳神経科の専門医が診断します。また、血液検査で軽度認知障害（MCI）のリスクを調べます。

認知症を発症する前に、ご自身やご家族の健康に早く気づき、生活習慣の改善や脳に刺激を与え活性化させて認知症の発症を予防しましょう。

「胸部X線デジタル検診車の整備」

本年9月、（公財）JKAの競輪補助事業により、胸部X線デジタル検診車を導入しました。

このたび、当協会の藤枝健診センターに、公益財団法人JKA（平成29年度 検診車の整備補助事業）の補助を受け、最新の画像診断装置を搭載した胸部X線デジタル検診車を導入しました。

この画像診断装置は、間接変換FPD装置（フラットパネル）と呼ばれ、従来の画像診断装置に比べると、画質が大幅に向上し画像が鮮明に撮影できるため、細部の異常も見逃すことなく発見できることが期待されます。また、撮影時の放射線量も減少したため、受診者の放射線被曝量の低減も図られます。このほか、この装置ではデジタル撮影のため現像を行うことなく撮影後すぐに技師が画像を画面で確認できます。

検診車両については、多くの方に使いやすいユニバーサル車両をコンセプトに、大きな特徴として、受診者ではなく、撮影装置が動いてくれるため、床がフラットで安全性が高まり、楽な姿勢のまま胸部撮影のポジショニングが出来ます。また、観音開きで広い乗降口のほか、車両背面に昇降リフトを設け、車いすの受診者も安全に乗降できます。また空調には発電機電源を利用した電気クーラーを採用することにより、車両のエンジンをとめることができ、排気ガスの減少や受診者の検査待ちでの環境改善が図られます。さらに、検診車内における動作についてわかりやすく絵や文字で表示するパネルや音声発生装置（10か国語対応）を搭載しており、聴覚障がい者や高齢者、外国人の方々にも安心して検診を受けることができる仕様となっています。

当協会では、現在胸部X線検診車を13台保有しており、今後も「みんなの健康を守る」の理念の下に、静岡県民の健康の保持・増進に努めてまいります。

